

観音寺中学校 道徳通信 7月号

期末テストも終わり、1学期を締めくくる時期になりました。総体やコンクール等に向けて、自分の目標に向かい、邁進する日々を送りながら、授業にも一生懸命に取り組んでいます。今月は3年生の授業を紹介します。



『小さな出来事』

1917年の冬、ある日「私」が人力車に乗っていると、そのかじ棒に老婆が引っかかり、倒れてしまいました。車夫は老婆を助け起こそうとしますが、「私」は老婆の狂言だと思い、早く行くように言いました。しかし、車夫は老婆に肩を貸して派出所を目指します。そんな車夫の偉大な姿を見た「私」は、車夫の後ろ姿が大きくなったように見え、自分の卑小さを感じました。

「私」はこの車夫の行動を見て、自分の傲慢さや思いやりの無さを恥じ、この出来事を教訓としました。この資料を通して、誰に対しても公平に接するためにはどんな考え方が必要なのかを考えました。

○授業を通しての感想(生徒記述より)

- ・誰かのために助けたいと思いやる心を人種や性別関係なくもっていたいなと感じました。「人のためにすることはめぐりめぐって自分のために」という言葉が私は素敵だと思っていて、大切にして生活をしたいです。
- ・誰に対しても公平に接するのは難しいと思います。でも、それをやろうという努力はできると思います。人によって考えが違うからこそ、自分の悪い部分を考え直さなければいけないところが見つかり、良くなっていくと思います。
- ・日頃からこのような場面はあると思うし、自分も見た目で判断してしまうことがあり、不平等だなと気づいたので、平等に接することを大切にします。
- ・嫌いなどころもあるかもしれないけれど、人間誰にでもあるから、いいところを見つけることが公平に接するための一歩になると思いました。

返信をありがとうございます。～道徳通信6月号の返信より～

- ・「友情」とは、遠く離れていても、互いの気持ちに寄り添い、励まし合える関係であると思います。また、辛いときは、悲しみ半減、嬉しい時は、喜び倍増するような、互いを思いやる関係を築き続けることができたなら素敵なことだと思いました。
- ・人はどこかで優劣をつけてしまいがちで、それが人を傷つけるかもしれないことがわかる時、どう行動するかが大事なのかなと思いました。そこに気がつけて行動できる人に成長してほしいです。
- ・道徳の授業は、気づきをくれますね。私自身、道徳通信を読んでハッとすることがしばしばあります。中学校生活の中で、自分に置き換えてみて、色々と学んで欲しいなと思います。

ご返信、ありがとうございました

お知らせ

今年度の道徳通信は、5月号以降ミッタメール配信としています。「返信欄」の代わりに、ご意見やご感想がございましたらミッタメールのアンケート機能として「返信欄」を設けますのでそちらでご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。

